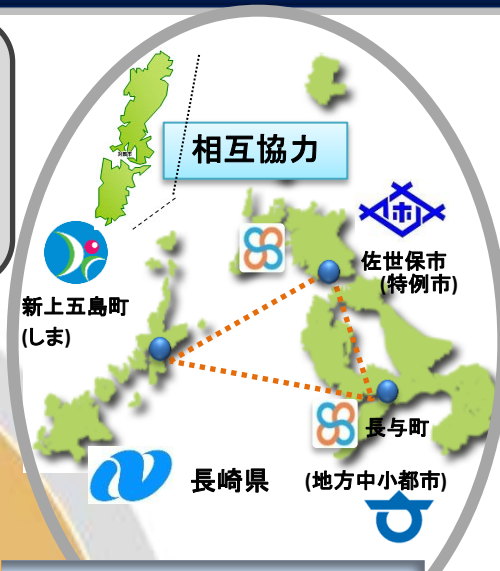


長崎県の多くの「しま」や地域においては、急激な人口減少や少子高齢化の進行により、地域コミュニティの低下、基幹産業の不振、伝統・文化の衰退など、日本において数年先に生じるであろう問題にいち早く直面しており、課題の解決が急務である。長崎県立大学では、「しま」を佐世保校、シーボルト校(長与町)に次ぐ第3のキャンパスとして位置づけ、「しま」での実践的な体験学習を全学的に導入する。そして、グローバルな視野をもち、かつ地域課題に主体的に取り組み解決できるグローバル人材育成のため、学長のリーダーシップのもとに地域を志向した教育改革や、地域における教育拠点の中心を担うための学部学科再編に全学的に取り組む。また、大学が「しま」に学んだ成果は、地域における人材育成や産業振興等を通じて地域に還すとともに、地域と大学が連携して、地域の宝(しま)を再生・創造する。



人材育成

- 地域を担うボランティアリーダー育成
- 外国語による観光ガイド育成
- 女性人材の育成

健康増進

- 生活習慣病、寝たきりの予防
- 食育活動の取組支援
- 安全安心出産と子育て支援

産業の振興

- 地域資源を活用した機能性食品開発
- 流通・物流の効率化

伝統文化の継承

- 「長崎を学ぶ」講座の実施
- キリスト教関連遺産保全の取組支援

取組事例を
県内に普及

大学では

- ・ 学長のトップマネジメントを強化し、大学の重要課題に的確かつ機動的に対応するために、重要課題毎のプロジェクトチームを編成し、大学改革を推進する。また、研究については、学長の主導のもとしまや長崎の地域課題を重点化する。
- ・ 全学的にグローバル人材育成を主眼とした地域志向のカリキュラム改革を行い、学部学科再編に取り組む。授業方法にアクティブラーニングを取り入れ、主体的な学修を促すとともに、モバイルラーニングを導入し学習を支援する。
- ・ フィールドワーク拠点として地域にサテライトキャンパスを設置し、出前講義、e-ラーニングにより生涯教育・地域協働の人材育成の拠点、子育てや高齢者の居場所としても活用する。

地域

しまを知る

しまの地理

- しまの交通・物流
- しまの歴史
- しまの医療・福祉

大学

しまに
学ぶ

地域を
つなぐ



フィールドワークの活用

- 「しま」でのフィールドワークの必修化
- 課題解決能力の育成**
- 「しま」をフィールドに地域が抱える課題を体験し、解決策を検討
- 就業力・社会人基礎力の養成**
- 「しま」をフィールドに就業力・社会人基礎力、リーダーシップを養成
- カリキュラム改革**
- 「しま」関連科目の増

地域では

- ・ 教職員・学生が、全員地域に向かうことにより、交流人口が拡大し活性化する。
- ・ 大学が地域を「つなげる」役割を果たすとともに、とき(伝統・文化)を理解し、ひと(住民・学生)、もの(特産品等)の動きを活性化させ、地域課題の解決を図る。
- ・ 広域的な視点で諸課題の解決を図るとともに、成功した取組事例は県内の他地域に普及する。

地域間の人と物の交流

- 教員・学生のフィールドワークを通じた人の交流
- 「しま」の実習を通じた人の交流
- 学生による旅行商品の開発
- モーターツアー・共同物産展等による3市町間の交流

ICTの利活用

- 遠隔講義システム活用
- モバイルラーニングシステム導入